

P-NPOICP2008
NPO経営資源開発研修

GEIC
Global Environment Partnership Center
地球環境パートナーシッププラザ

エコたまの強化・活性化

若者参画の拡大から
パートナーシップの裾野を広げる

2008年12月13日(土)

地球環境パートナーシッププラザ

発表者: 高橋真美
インターン: 阿部弘佑

マーケティング施策の概要

課題

- エコたまの強化・活性化

施策

- 特派員
- 学生新聞

目標

- 市民社会を支える人材育成

地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)について

設立時期 → 1996年 10月
 運営体制 → 環境省、国連大学、NPO、その他様々なセクター
 ミッション → 持続可能な社会の実現
 方法 → 多様な主体によるパートナーシップの創出

5つの事業

1. 地域づくり → 「環境まちづくりフォーラム」
2. みんなでつくる環境政策 → 「環境政策研究会」
3. 企業と他セクターとの連携 → 「パートナーシップの相談対応」
4. 情報共有とコミュニケーション } 情報発信
5. EPOネットワーク } 「場」づくり



「エコたま」とは

GEIC学生ボランティアグループ

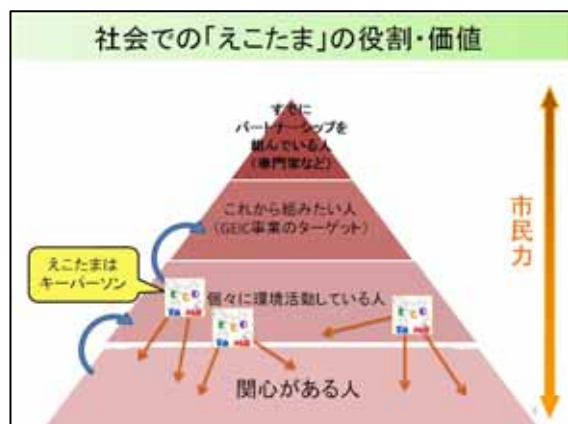
《活動内容》

- ・月1ミーティング
- ・イベントお手伝い

《特長》

- ・やる気・関心がある
- ・GEICと社会のつなぎ役
- ・ネットワークがある
- ・柔軟な思考
- ・トレンドを知っている

新しい切り口
ボーダーレス



「えこたま」の課題・問題点

《学生特有の問題点》
 定着に不安。流動的で、入れ替わりが早い。
 +
 《えこたまの課題》
 ・定期Mtgへの参加率にばらつきがある → 参加率Up
 ・定着率がまばらで、固定メンバーになりがち → 新メンバー獲得
 ・GEICや他団体、環境についての知識がうまく共有できていない
 (中心メンバーでもGEIC事業をよく理解していない)
 →GEICを知る、市民社会で力を発揮できるようにする

↓

前出の特長を活かして課題を解決する

マーケティング施策

えこたま特派員

セミナー参加やNPO
教材をし、報告書を作成する

新聞製作

特派員報告とメンバー
の近況や活動をコラム
にする

プロによる
取材・報告講座
新聞製作へのアドバイス

スタッフとのパートナーシップ

ターゲット

●大学1・2年生

- ・東京、埼玉、千葉、神奈川県在住 377万*2 = 89万人
 *文部科学省「学校基本調査 平成18年度」による
- ・GEICのセミナーに参加した学生
- ・環境に関する学部、社会学部など

GEICに関わったきっかけ

【募集方針】
 インターンとして公募する

インターンとして、スタッフより意識に関わった人が、えこたまの中心メンバーとなっているため

広報

大学の社職課/
ボランティア・センター

- ・武蔵工大
- ・明治大学
- ・東京農大
- ・麻布大学
- ・明治学院大
- ・青山学院大
- ・立教大

環境系サーチサイト

- ・Vivaボランティアネット
- ・NPO/NGO Walker
- ・東京ボランティア・市民活動センター
- ・環境goo
- ・Yahoo!掲示板

GEICの広報媒体

- ・校内での案内
- ・ホームページ
- ・メーリングリスト
- ・メルマガ
- ・口コミ

効果予測

	えこたま	学生	GEIC
実施前	・定期Mtgの参加率にばらつき ・定着率がまばらで、固定メンバーになりがち ・他団体の情報に関する知識がスプロットと共有できていない	・GEIC事業の全体を十分に理解できていない ・他団体の情報に関する知識をえこたまと共有できていない	・インターンとしての認識向上、関係強化 ・出展したかたのセミナーやイベントの情報が増える ・卒業後(ない)団体の継続を知ることで ・情報共有に対する意識の向上
実施直後	・定期Mtg参加回増 ・固定メンバー獲得 ・他メンバーと共有できる	・環境や団体の知識 ・教材、報告書作成のスキル ・対人、対時セミナー ・登録会や機会のない人や組織(企業や行政など)との交流につながる学び ・自身の価値に気づく ・市民セクターの存在を知る	・インターンとしての認識向上、関係強化 ・出展したかたのセミナーやイベントの情報が増える ・卒業後(ない)団体の継続を知ることで ・情報共有に対する意識の向上
長期的視点	・事業が定着する ・組織化する	・別の活動や社会に出てから、経験が活かされた ・適切な学びが、それからの活動が定着するために活かされた	GEICを支える人材の育成は、市民社会を支える人材育成につながる

市民力になる／市民社会が育つ

スケジュール

8月 → 9-12月 → 1月 → 2月 → 3月

発表

- ・練り込み
- ・スタッフ担当着決め
- ・定入れ体制作り
- ・テスト実施

特派員

- ・第1-2回実施、報告
- ・マニュアルフォーマットの見直し
- ・次月の取材先確定

学生新聞

- ・マニュアルフォーマット作り
- ・取材イベントセミナー確定
- ・取材/報告書 講座実施

新聞実施

- ・第3-4回 実施、報告
- ・ふりかえり、評価
- ・4月以降の予定たて

制作 → 発行